

人の値打ち

一遍の詩を紹介いたします。

何時かもんぺをはいて
バスに乗ったら
隣座席の人は私を
おばはんと呼んだ

戦時中よくはいたこの活動
的なものを
どうやらこの人は年寄りの
着物と思っているらしい

よそ行きの着物に羽織を着
て

汽車に乗ったら
人は私を奥さんと呼んだ
どうやら人の値うちは
着物で決まるらしい

講演がある
何々大学の先生だと言えは
内容が悪くとも
人々は耳をすませて聴き
良かったと言う
どうやら人の値うちは
肩書きで決まるらしい

名も無い人の講演には
人々はそわそわして帰りを

急ぐ
どうやら人の値うちは
学歴で決まるらしい

立派な家の娘さんが
部落にお嫁に来る

でも生まれた子供はやつぱ
り

部落の子だと言われる
どうやら人の値うちは
生まれた所によって決まる
らしい

人々はいつの日
このあやまちに気付くであ
ろうか

この詩は、部落差別解消
に力をそそがれた江口いと
さんが書いた詩です。

「人の値うち」を服装・学
歴や住んでいる所で判断す
ることのおかしさを訴えて
います。

この詩を読まれて、差別
された人の痛みに共感し、
差別の不合理さを再認識さ
れた人も多いのではないで
しょうか。

また、うわさや一面的な
評価にとらわれず、正しく

知り、様々な立場の人の気
持ちを考えて行動すること
の大切さを感じ取らせてく
れる詩でもあると思いま
す。

私たちは、性別や顔立ち、
生まれ育った環境や文化的
な背景も異なり、考え方や
趣味・趣向などもさまざま
で、個性を持った一人の個
人として尊重される存在な
のです。差別や偏見によっ
て人の値うちを決めるので
は無く、ともに認め合い、
ともに尊重し合える社会を
作っていきましょう

「部落差別解消推進法」が
昨年12月16日より施行され
ています。

引用
明石書店発行「人の値うち
江口いと人権の詩」より

市人権推進課(教育庁舎1階)
☎ 32・21122
FAX 33・35225
Mail:jinkensuishin@city.
komatsushima.i-tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (339) 松並敦子・選

ひんやりと秋を肌(はだ)に感じつつ目覚めさわやか朝餉(あさげ)の支度(しだく)

神田瀬町 大西カヲル

《評》猛暑(もうしょつづ)続きの今年(ことし)は秋(あき)が来るのが本当(まこと)に待ち遠(まち)しかった。

「秋(あき)来(き)ぬと目(め)にはさやかに見えねども風(かぜ)の音(ね)にぞおどろかれぬる」と古
今集(きんしゅう)に有名な歌(うた)があり「風(かぜ)の音(ね)」で秋(あき)を感じ取(と)っている。大西(おほにし)さんは目
覚(さ)めた時の「ひんやり」とした皮膚(ひわ)感覚(かかく)で秋(あき)を感じ取(と)っており、そのさ
わやかさの中(なか)での「朝餉(あさげ)の支度(しだく)」に生活感(せいかん)が出ていて巧(たく)みな歌(うた)である。
過ぎてゆく(時)惜(お)しめとや赤(あか)とんぼふたつ睦(むつ)まじく目交(まなか)いよぎる

田浦町 西 照子

ひとり居(い)の家の灯(あかり)があかかと県外(けんがい)ナンバーの止まる盆休(ぼんやす)み

田浦町 太田カツミ

秋(あき)の雲(うみ)「オーイ」と呼(よ)べば「オーイ」と返(かえ)るそんな気がして

横須町 福島 夢栄

「オーイ」と呼(よ)べり

赤石町 田原トシ子

くたびれし庭(にわ)の花(はな)ばな夕立(ゆうだち)をいっばい浴(あ)びて生気(せいき)取り戻(もど)す

櫛淵町 松下 玉枝

灯火(とうび)の消(け)えしごとくに逝(ゆ)きし義母(はは)三十四回(さんじゅうよっぺ)目の金(かね)を迎(むか)える

坂野町 橋本千代乃

家中(いえじゅう)の雨戸(あまど)を閉(し)めてほっとするお昼(ひる)過ぎ(すぎ)から台風(たいふう)の予報(よほう)

江田町 深田 伴子

夕顔(ゆがお)の実(み)はくるくると林檎(りんご)の皮(かわ)のように剥(む)かれてかんびよ
うとなる

立江町 湯浅かや子

刈(か)り取りの落(お)ち穂(ほ)に集(つ)まる雀(すずめ)子(こ)と憩(い)いし日(ひ)日はひと昔(むかし)前(まへ)

横須町 山崎 泰子

風呂敷(ふろしき)に包(つつ)んでくれる品物(しなもの)はしっとり納(おさ)まり息(いき)づいてる